様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第１面）

産業廃棄物処理計画書

令和　８年　６月　８日

茨城県知事　　殿

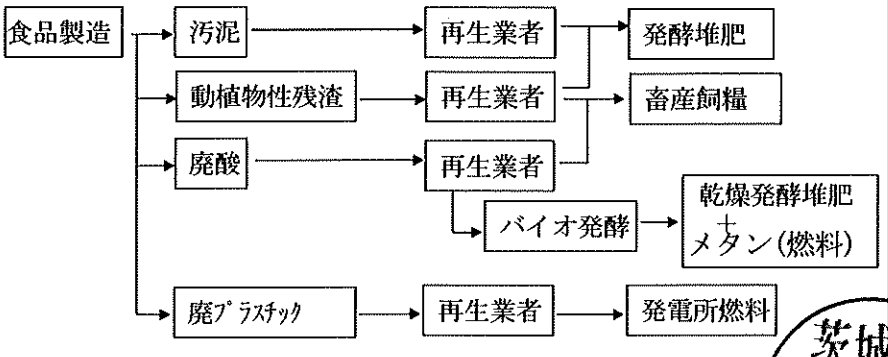


提出者
住　所 茨城県石岡市北府中３丁目１番20号
氏　名 筑波乳業株式会社
代表取締役社長　堺　弘行
（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）
電話番号　0299-24-2111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第９項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	筑波乳業株式会社　玉里工場
事業場の所在地	茨城県小美玉市上玉里2232-1
計画期間	令和　８年　４月　１日～令和　９年　３月31日まで　１ヵ年

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	E-09　食料品製造販売業
②事業の規模	生産出来高　16,263,083,910円
③従業員数	384名（2026年４月１日）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	

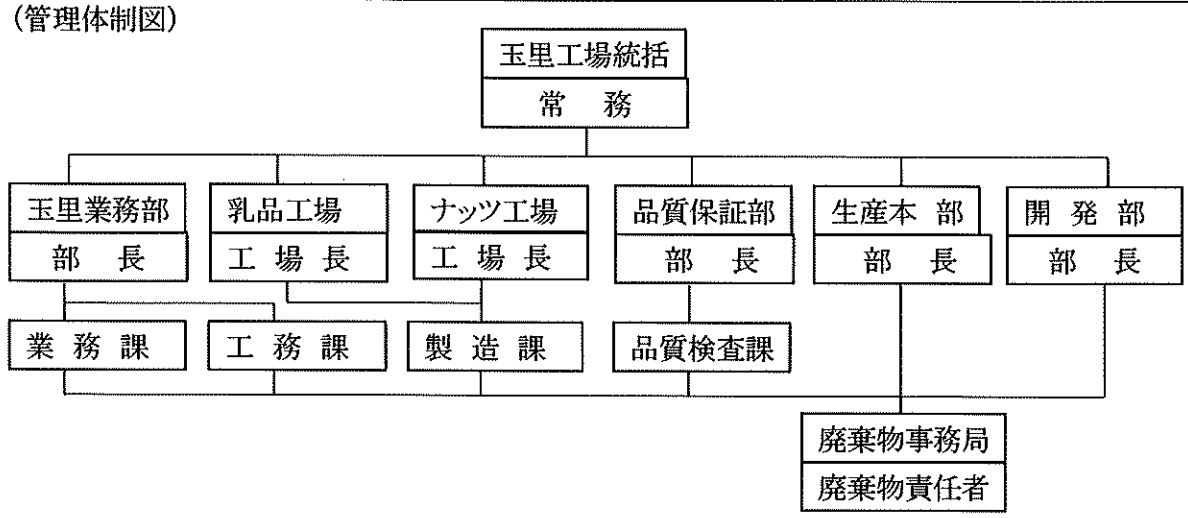


（日本工業規格Ａ列４番）

（第２面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①　現状

【前年度（　2025 年度）実績】

産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
排　出　量	t	t

（これまでに実施した取組）
*汚泥：運転条件の見直しによる水分率の低減
*廃酸：製品に移行させる。
*動植物性残渣：検査の向上、歩留まり向上の検討
*廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ：分別による有価物

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
排　出　量	t	t

（今後実施する予定の取組）
*汚泥：膜処理の変更により汚泥量を減少させる
*廃酸：飼料への資源化
*動植物性残渣：検査頻度の改善、分別の徹底による有価物化
*廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ：ラップの再資源化

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
*廃棄物と有価物の分別
*廃棄物の種類による分別と

②計画

（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
*数量確認と種類の分別
*循環資源への転換

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行った
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行う
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="5">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行った
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量した
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行う
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量する
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行った
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>―</td><td>―</td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行う
産業廃棄物の量</td><td>―ｔ</td><td>―ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">産業廃棄物の処理の委託に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="7">①　現状</td><td colspan="3">【前年度（　2025 年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>別紙のとおり</td><td></td></tr>
<tr><td>全処理委託量</td><td>ｔ</td><td>ｔ</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への
処理委託量</td><td>ｔ</td><td>ｔ</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への
処理委託量</td><td>ｔ</td><td>ｔ</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への
処理委託量</td><td>ｔ</td><td>ｔ</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の
熱回収を行う業者への
処理委託量</td><td>ｔ</td><td>ｔ</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）
*汚泥 1302.670t を発酵堆肥の原料として利用した。
*動植物性残渣 47.330t は分別を徹底し資源化をした。
①42.620t は発酵堆肥の原料となった。
②4.710t は焼却処分した。
*廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ 56.114t は焼却処理し熱回収業者に委託した。
*廃酸 45.272t は液体飼料とした。212.1ｔの削減となった。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="8"></td><td rowspan="8">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>別紙のとおり</td><td></td></tr>
<tr><td>全処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="2">※事務処理欄</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考

1　前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

2　当該年度の６月 30 日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第６条の 11 第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7　※欄は記入しないこと。

別紙

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2025年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃酸	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	動植物性残渣	合計
	排出量(t)	1302.670t	45.272t	56.114t	47.330t	1451.386t
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃酸	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	動植物性残渣	合計
	排出量(t)	1200.000t	30.000t	50.000t	40.000t	1320.000t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2025年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃酸	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	動植物性残渣	合計
	全委託数量(t)	1302.670t	45.272t	56.114t	47.330t	1451.386t
	優良認定処理業者への処理委託量	1302.670t	45.272t	56.114t	47.330t	1451.386t
	再生利用業者への処理委託量	1302.670t	45.272t	t	42.620t	1446.676t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	56.114 t	4.710t	4.710t
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃酸	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	動植物性残渣	合計
	全委託数量(t)	1100.000t	40.000t	60.000t	40.000t	1240.000t
	優良認定処理業者への処理委託量	1100.000	40.000t	60.000t	40.000t	1240.000t
	再生利用業者への処理委託量	1100.000t	40.000t	t	35.000t	1230.000t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	t	5.000t	10.000t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	60.000t	—	—